

ポスター③

お薬手帳アプリの現状と課題

下北沢店
○齋藤 智恵美
小口 綾乃
伊藤 公美

【目的】

現在、薬剤服用歴管理指導料の算定基準にもあるように、お薬手帳の持参、活用いただくことが重要視される中で、お薬手帳を活用していない患者様へのアプローチが求められている。厚生労働省公表の患者のための薬局ビジョンにもあるように、全ての服用情報を一元的・継続的に把握するため、ICT(電子版お薬手帳等)の活用が推奨されている。電子版お薬手帳(以下お薬手帳アプリ)により、持参率の向上が図れるのではないかと考え、現在の電子版お薬手帳の使用状況と今後の活用方法を検証する。

【方法】

- ① お薬手帳アプリを実際に使用している患者様を対象にアンケートを実施
開始日、理由、メリット、デメリット等
- ② 上記で汎用されているお薬手帳アプリを実際に検証
QRコードが読めるか、過去の服用状況・副作用歴等

【結果】

- ① アンケート実施 25 名
男性 8 女性 18 名 うち 20 名が 1 年以内に使用を開始している。
使用開始理由は薬局のすすめが半数以上であった。
- ② 汎用アプリいずれも、自社 QR コードは問題なく読み込めた。
薬局検索で登録薬局のみが表示される、処方せんが送信できる等、自社開発アプリならではのメリットも多く散見された。

【考察】

どのお薬手帳アプリも性能は良く、患者様ご自身も管理が容易であり、持参忘れは確実に減るであろうことが分かった。今後もお薬手帳アプリの利用増加は継続することが見込まれる。お薬手帳アプリは若～中年層や薬剤数の少ない方等に対して、お薬手帳を持つきっかけの 1 つとして推奨するには十分利用価値があると考えます。ただし保護者が来局する場合や、薬剤数の多い処方の確認など現時点での使いづらさも確認できました。また、薬剤師にとっては、確認・閲覧が難しくなり、現状のシステムでは患者様とのコミュニケーションがより必要になると感じた。